

山陽新幹線 厚狹駅～新下関駅間における保守作業延伸の原因と対策について

2024年9月23日（月）山陽新幹線 厚狹駅～新下関駅間で発生させた、保守作業延伸の原因と対策につきましてお知らせいたします。ご利用のお客様に多大なご迷惑をおかけし、またご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げますとともに、再発防止に努めてまいります。

1. 発生日時

2024年9月23日 3時57分ごろ

2. 発生場所

山陽新幹線 厚狹駅～新下関駅間 下り線 埴生（はぶ）トンネル内

3. 列車影響

- ・ 運転休止：75本
- ・ 遅延本数：121本
- ・ 遅延時分：225分～1分（最大遅延：225分 ひかり591号）
- ・ 影響人員 71,800名

4. 概況

9月22日23時40分ごろより、厚狹駅～新下関駅間下り線において保守用車を使用し、車両に電気を供給する架線の張替作業を実施していました。

23日の3時57分ごろ、（1）架線を接続する手順を誤ったため、復旧材料を手配し、作業時間を延伸して6時20分に現地での作業を終了しました。

その後、作業に使用していた保守用車を新山口保守基地に回送しようとしたところ、（2）保守用車のブレーキが緩まない事象が発生したため、新山口保守基地から救援の保守用車を手配し、11時32分に保守用車を新下関駅へ収容、11時36分に運転を再開しました。

5. それぞれの事象の原因と対策

（1）架線の接続手順誤り

原因：架線を磁器がいしに接続するための金具の取付手順を誤ったまま作業を進めてしまいました。

対策：作業手順を複数人で確認すること、ならびに作業手順の誤りを想定し対応策（復旧材料の持ち込みなど）の準備を徹底します。

（2）保守用車のブレーキが緩まない事象

原因：作業中に保守用車作業台にある非常停止ボタンを誤って押下げていたため、保守用車のブレーキが緩みませんでした。ブレーキが緩まないことに対して、ブレーキが取り付けられている台車付近の調査に集中してしまい、非常停止ボタンの状態確認ができていませんでした。

対策：ブレーキが緩まないときは非常停止ボタンの状態を確認することを徹底します。

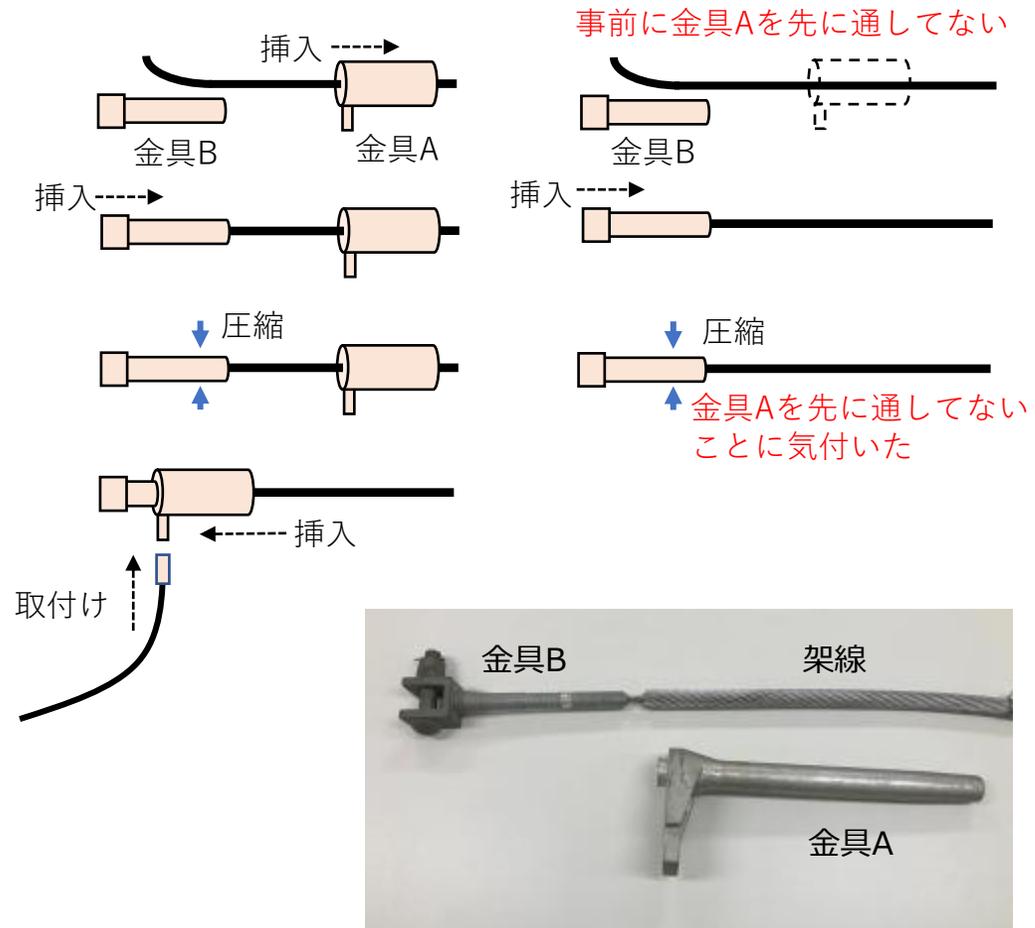
非常停止ボタンを押下げたことを分かりやすく確認できる構造を検討します。

(1) 架線の接続手順誤り

先に架線に通すべき金具Aを通さず、金具Bを圧縮し接続した

[正しい手順]

[今回の手順]



(2) 保守用車のブレーキが緩まない事象

保守用車の作業台上にある非常停止ボタン



誤って押下げていた

